

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部
学年(出発時)	4年
大学名	セントラルランカシャー大学
国	イギリス
留学期間	2023年9月～2024年1月
派遣先での身分	学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
	朝食
9:00	
	自習
10:00	
	洗濯
11:00	
12:00	
	自習
13:00	
	昼食
14:00	
	授業
15:00	
	授業
16:00	
	授業
17:00	
	部活
18:00	
	部活
19:00	
	夕食
20:00	
	友人と過ごす
21:00	
	友人と過ごす
22:00	
	お風呂
23:00	
	就寝
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Study Overseas Programme	15	不明	英語	15人程のクラスで英語や英国文化を学ぶ
The Responsible Marketer	4	不明	英語	1hの講義、3hのグループワーク

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	Free English Classes、無料、平日2h開講

生活	
住居のタイプ	寮
住居の名前	Whitendale Hall
部屋タイプ	1人部屋、風呂トイレ・キッチン共用
ルームメイト(国籍)	日本、韓国、韓国、オーストリア
室内設備	机、椅子、洗面台、ベッド、マットレス、クローゼット
共用施設	風呂(バスタブ有)、トイレ×2、キッチン(テーブル・イス有)
インターネット設備	学校のWi-Fi
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩(近い校舎で3分、遠くて15分)
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	申請無
Visa申請先	
Visa取得にかかった日数	
Visa取得にかかった費用	
Visa取得方法、提出書類等	
留学先大学の最寄り空港までの経路	名古屋→東京(新幹線) 東京→ドバイ→マンチェスター(航空機)
渡航費用	20万
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	3年次
帰国後の進路	一般企業就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ポンド＝180円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	6万円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	無
宿舍費(月額)	7万円
光熱費(月額)	宿舍費に含まれる
食費(月額)	10万円
その他	
留学期間中にかかった費用の合計	150万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

4か月間のセントラルランカシャー大学での留学を終えて、一番の感想は「行って良かった」ということである。初めての寮生活や言語の壁などの困難もあったが、それ以上に充実した日々を送ることができ、当初の留学の目的の一つであった実践的な英語力を身につけることができた。以下に、留学生活での気づきや苦労した点を記述していく。

まず、学習面について、セントラルランカシャー大学へ留学する人は2タイプから自分に適したコースを選択できる。一つは、今回私も参加したStudy Overseas Programmeである。これは、英語を学びたい学生に特化したコースで、基本的に月曜から金曜まで平日毎日3時間の英語の授業を受講する。そして、最終課題には4技能テスト(50%)、1,200字エッセイ(25%)、7分のプレゼンテーション(25%)が課せられる。全体の人数は30人程度で、そこからさらに2つのグループに分けられる。そのため、1グループ15人前後で、英語4技能の授業やイギリスの文化についての授業が実施される。このプログラムを通じて、特にライティングの力を伸ばすことができた。最終課題のエッセイに向けて、学術的な論文の書き方や、参考文献の選び方、引用方法などを学ぶことができた。また、先生からのフィードバックの機会も充実しているため、文法面の指摘はもちろん、論理的な構成力も伸ばすことができた。また、個人的に、スピーキング力についてはこの授業だけでは不十分に感じたため、別に時間を確保する必要があった。私の場合は、同じ寮になった友達やサークルで知り合った友達と積極的に会話をするように意識していた。Study Overseas Programmeとは別のコースとしては、現地の学生に混ざって講義を受ける学部生コースがある。このコースを履修している友達の話を聞き限り、授業時間は1週間に2〜3コマと少ない代わりに最終課題の比重が大きく、学年末になると忙しくなるようである。ただ、Study Overseas Programmeでも、単位にはならない(=最終課題はない)が1コマだけ同様の講義を受講できるため、英語力にそこまで自信はないが、現地の授業の雰囲気を知りたい方はStudy Overseas Programmeの履修がおすすめである。

次に生活面について、寮生活、食事、天気の観点から気づいた点を述べる。まず、寮生活は5〜8人が同じキッチンを共有することになる。そこから、個人の部屋に風呂・トイレがついている寮と、風呂・トイレも共用の寮に分かれる。同じ寮になった人と仲良くするかは自分次第なので、みんなで旅行に行くほど仲が良くいところもあれば、一切会話がなところまで様々であった。何かトラブルがあれば引っ越しも可能など、柔軟に対応してくれる。次に、食事について、イギリスは一般的に食べ物が美味しくないというイメージがあるが、個人的には美味しくなくはなかったと感じた。外食については、基本的に値段が高い分、味付けがしっかりされており、満足できることが多い。ただ、スーパーには食品の品数があまり充実していないため、自炊する際は献立が固定されがちになる。最後に天気について、こちらは想像以上に悪かったため注意が必要である。基本的に空は曇っていて絶えず小雨が降っている。日光を浴びれる機会が限られているため、鬱にならないように気を付ける必要がある。

最後に、今回の留学を通じて、リスニング力が一番鍛えられた。やはり、現地の学生や街の人の生の英語を聞くことで、日本では学ぶことができない力が得られた。留学前では不可能だった映画も字幕なしで楽しめるほどに成長できた。留学に行く前は不安がとても大きかったが、帰ってくるとそれは充実感に変わるため、迷っている人はぜひ留学に行くことをおすすめする。

今後留学する人へのアドバイス

外国語を学んでいる人にとって、留学をアウトプットの場として活用してほしい。日本にいる間に可能な限り単語やイディオムを覚えていき、それを実際に現地で使用し、正しい使い方なのかを学んでいくと効率が良いと思う。外国の地で現地の人と交流できる貴重な機会になるべくインプットに使う時間を短くし、アウトプットに充てると上達も速い。

また、渡航時期については、往路は到着指定日の直前に、復路は可能な限り長く滞在することをおすすめする。行きは早く着き過ぎても特にすることがなく退屈なだけなので、交流イベントなどが開始される前日などに到着するぐらいがちょうどよい。また、復路は最後の授業から2週間以内という期限は守りながら、ゆっくりと残りの生活を楽しめば良いと思う。

報告書記入日

2024年1月30日